住民参加型ミーティング

OPENTALK TAKETOYO

話せば、まちはもっと面白い。

Vol.4

アフターファイブの過ごし方

日　時　８年10月７日（水）
１９：００～２１：００
場　所　武豊町思いやりセンター
問合せ　役場 DX推進課

Vol.4のOPEN TALK TAKETOYOは

「話せば、まちはもっと面白い。」をコンセプトに、住民と町長が同じテーブルを囲み、自由に語り合う対話の場です。今回は町長を含む17人が参加し、仕事や用事の後に武豊町でどんな時間を過ごしたいか、アイディアを出し合いました。



ワーク01「仕事や用事のあとにあったらいいな」を付箋に書き出してみよう！

3つのグループに分かれ、まずは一人ひとりが「アフターファイブにやりたいこと」や「あったらうれしいお店や場所」を付箋に書き出しました。思いついたアイディアをどんどん出していくと、趣味を楽しむ場や、ゆったり過ごせる場所など、さまざまな声が集まりました。

スポーツ観戦できる場所 / サウナ / ぼんやりしたい / カフェ・バー / 運動する・ジム

ワーク02 たくさんのアイディアをもとに「まちづくりについて考えよう！」

個人ワークの内容をグループ内で共有し、その中から特に実現したいことをピックアップして仕事が終わったあとも過ごしたいまちを考えました。





発表03「アフターファイブに過ごしたいまち」について発表しよう！





公共施設や地域の文化を生かす

ゆめたろうプラザなど、町にある施設や文化資源をもっと活用できないかという声も。人と人がつながり、学んだり、趣味を楽しんだりできる場への期待が寄せられました。

まちの中に森をつくる「たけトピア」

森の中を走ったり、星空を眺めたり、ゆっくり過ごしたり。ランニング後に使えるシャワーやサウナ、カフェやバー、絵本の森、ヨガや演奏ができる場所など、自然の中で多様な過ごし方を楽しめる空間のアイディアです。

みんなが挑戦できる「チャレンジ枠」

使い方を限定しない、何でも挑戦できる空間があり、やってみたい人が気軽に教室やイベントを開ける場所をつくるアイディア。
AIのワークショップや料理、釣り、ジビエ料理など、趣味や得意なことを持ち寄って、誰かの「やってみたい」を応援します。学生が参加するファッションイベントやウォーキング教室などの案も出ました。

アイディアを実現するには「公民連携」が大切

最後に、円になって感想や気づきについて話し合いました。
アイディアを実現するには、場所を整えるだけでなく、そこで活動する人や運営する人が必要です。行政だけで担うのではなく、民間事業者や住民と力を合わせることで、続けられる仕組みにつながります。



